

金太郎

昔々、山奥に金太郎というダウン症の男の子がいました。

金太郎は、山の動物たちと仲良しで、毎日、相撲をして遊んでいました。

「はっけよい、のこったのこった」

「金太郎、頑張れ！」

金太郎は、みんなに応援されますが、いつも負けてしまいます。体の大きな熊はもとより、小熊や猿にも負けてしまいます。でも、負けても、みんなに愛されています。

ある日、大変な事態が起きました。雨で川が増水し、多くの動物たちが川に流されてしまったのです。みんな必死にあがきます。助けに入った、力の大きな、熊や猿、牛に、馬、みんな流されていました。

「どうしよう、みんな死んじゃうよ！」

リスや蝶々などは、どうすることもできず、ただただ心配するばかり。

そんな様子を見ていた金太郎が叫びます。

「みんな、オラに力を貸してくれ！」

金太郎は、増水した川に大木を倒して、橋を架けようとしたのです。

小動物や昆虫のみんなも力を合わせ、みんなで大木を押します。

「ぐああ、あと少しだ！」

金太郎の掛け声の下、ついに大木が倒れました。

「みんな、木に登るんだ！」

金太郎は、倒した大木を渡り、多くの動物たちを助けました。

「金太郎、やればできるじゃん！」

「金太郎、本当にありがとう！」

みんなが金太郎にお礼を言います。

金太郎の功績は、都の偉いお侍さんの元まで知られることになりました。お侍さんは、金太郎を家来に迎えようとしたのですが、金太郎は断りました。

「亡くなった動物の友達もいます。僕は完ぺきではない。家族を失った山の動物たちのためにできることをしたいんです。ごめんなさい」

「いやいや、良いんだ。君は、山に残るべきかもしれない。再び増水しないように、堤防を作らせよう」

堤防もでき、金太郎は、みんなから感謝されました。

金太郎は、増水で亡くなった動物たちの供養のために、立派な神社を建てました、

神社の真ん中には、土俵を作り、いつまでも笑いの絶えないみんなの社交場

となりました。

「これでいい。みんなの笑い声は何よりの弔いになる」

金太郎は相変わらず、負けてばかり。優しすぎるんです。

了

Copyright (C) 2016. Angel RISA. All Rights Reserved.